

地域特産の花木に着目し挑戦 複数種の栽培で通年出荷し安定した収入を確保

木村 亮介（JAはくい押水花木部会副部会長）（宝達志水町）

主な園芸作物等



園芸作物導入の経緯等

- ◆ 大学を卒業後、JAに就職したが、「いずれは農業をしたい」と考え、令和2年に独立就農。
- ◆ JAで花木を担当した経験から、通年出荷できることや大型機械が必要ないため初期投資が少なくなくて済むなどの利点を知り、花木栽培に取り組むことを選択。
- ◆ 現在は、ニューサイラン、サンゴミズキ、行李柳など約30種類の花木を320aの農地で栽培。



木村亮介さん

これまでの課題に対する対応

- ◆ 先輩生産者や県農林総合事務所から学び、栽培技術を習得。
- ◆ 複数種の花木を栽培・出荷することで、通年で安定的に収入が得られ、業務量の平準化を図っている。
- ◆ 乗用草刈機やスピードスプレイヤーなど除草・防除作業を機械化することで、作業の省力化が図られ、その結果、人件費を削減できている。
- ◆ JAはくい押水花木部会が栽培する「能登押水花木」は、令和7年に石川県産ブランド農林水産物「百万石の極み」に認定。
- ◆ JAはくい押水花木部会が開設したインスタグラムに農作業の様子や出荷する花木などを随時投稿し「能登押水花木」のブランド力向上に取り組んでいる。

今後の展望等

- ◆ 「能登押水花木」の知名度を高めることで、若い新規就農者を呼び込み、産地の出荷量を増やし、市場のニーズに応えるようにしたい。



花木を使ったアレンジメント

（令和8年7月）